

学位論文要旨

景観形成に対する行政と住民による
取り組みに関する研究

杉谷 真理子

I. 論文題目

景観形成に対する行政と住民による取り組みに関する研究

II. 論文目次

序章	1
1) 日本における「景観」	
i 「景観」概念と研究動向	
ii 「文化的景観」	
2) 本研究の目的	
第I章 景観を支える法令と住宅景観の研究動向	8
1) 景観保全および景観形成に関連する法整備	
2) これまでの景観研究の視点	
i 歴史的景観の保全	
ii まちづくり	
iii 住宅地の外観	
3) 小括	
第II章 伝統的集落のみられる地域における住宅景観	20
1) 東広島市の景観と都市計画	
i 地域概観	
ii 景観特性	
iii 都市計画	
2) 文化的景観の残る地域における住宅	
i 調査対象地区	
ii 住宅外観の調査方法	
iii 住宅の建築様式と特徴	
iv 住宅景観の概要	
3) 文化的景観の残る地域における住民の景観意識	
i 聞き取り調査方法	
ii 回答者と住宅の特徴	
iii 景観への意識	
4) 小括	
第III章 住宅団地における住宅景観	57
1) 東広島市の住宅開発	
2) 住宅団地における住宅景観	
i 調査対象団地と調査方法	
ii 住宅の建築様式と特徴	

iii	住宅の色彩と塀	
3)	住宅団地における住民の景観意識	
i	聞き取り調査方法	
ii	回答者の属性と住宅	
iii	景観への意識	
iv	規制に関する意識	
4)	建築業者の景観形成	
i	建築業者の概要	
ii	住宅景観の形成に関わる取り組み	
5)	小括	
i	住宅団地における景観	
ii	住宅団地の住民の景観意識	
iii	建築業者と住宅景観	
第IV章	行政中心の景観規制のある都市における住宅景観	159
1)	沖縄県那覇市の地域概観	
i	都市と景観	
ii	都市景観形成地域	
2)	都市景観形成地域における住宅と商業関連施設	
i	調査対象地区と調査方法	
ii	「通り」としての景観	
3)	都市景観形成地域における住民の景観意識	
i	聞き取り調査方法	
ii	回答者の属性	
iii	景観への意識	
4)	小括	
i	各地区の通り景観と特徴	
ii	景観保全と景観形成への意識	
終章		199
1)	建築物の外観と人々の意識からみる景観形成のメカニズム	
i	伝統的集落のみられる地域における景観変化・景観形成	
ii	住宅団地における景観形成	
iii	行政中心の景観規制のある都市における景観形成	
2)	景観形成における課題	
3)	本研究における今後の課題と展望	
参考文献等		206

Ⅲ. 論文要旨

序章

本研究は、これまで研究対象とされることが少なく体系化されてこなかった住宅景観について、行政の景観形成に対する取り組み、住宅の外観、住民の景観意識や行為の側面より、その景観形成のメカニズムを解明しようとするものである。

本章では、「景観」用語の定義および本文中に使用する関連用語の定義について検討し、本研究の意義・目的を述べた。

- 1) 本論文では、「景観」の定義の変遷をまとめた岡田（1987）、渡部（2009）、渡部ほか（2009, 2010）をもとにして、主として地理学の見地に立ち、「景観」を可視的で客観的に捉えることができる地表上に構成されたある一定のまとまりであると定義し使用することとし、それを目にする人間によって意味付けや価値判断が可能であるものとして考える立場をとった。また、金田（2012）の「その地域の自然条件・立地条件並びに社会的・経済的条件との強い関わりの中で成立した景観」（p.20）に倣い、ある地域に特有の、自然的環境、人々の生活形態および価値観によって構成・形成された住宅の存在する景観を「文化的景観」と定義し、「住宅景観」の現状や形成要因を考察する際に「文化的景観」の視点を取り入れることとした。
- 2) 景観に関しては地理学を含むさまざまな立場による研究が行われているが、その景観の形成および変化に携わる人々の意識や価値観直などの精神的構成要素にまで踏み込んで言及されているものは少ない。また、住宅景観に関しては、最も身近であり誰しもが関わっている景観であるにもかかわらず、具体的にどのような仕組みをもって形成されているか、そこに人々の内面がどのように影響してくるかということは明らかにされてこなかった。そのため本研究では、文化的景観を有する地域における住宅景観を対象として、行政における景観施策のもと、住民の文化的景観に対する思いや住宅景観への取り組みを検討する。

第Ⅰ章 景観を支える法令と住宅景観の研究動向

第Ⅰ章では、景観形成の背景となっている法整備の内容の課題を検討し、住宅景観を主とした既往の景観研究の動向をまとめ、その研究の視点を導出した。

- 1) 景観の保全や形成を図る際の根拠となる法とその仕組みについて、特に住宅景観に関するものを取り上げた。わが国において、景観形成に直接関わっている現行の法律としては文化財保護法、景観法、歴史まちづくり法が挙げられる。1950年に施行された文化財保護法は、文化財を保護対象として明文化したものであり、「伝統的建造物群保存地区」の決定および「重要伝統的建造物群保存地区」の選定などの制度とともに、2005年の改定において新たな保護対象として「文化的景観」が加えられ「重要文化的景観」の選定が行われるようになった。2005年に施行された景観法は、地方公共団体の制定した景観条例に強制力が伴わなかった状態を克服するものであり、

今日の景観まちづくりが盛んに行われるようになった契機ともいえ、これを背景に「景観まちづくり」への取り組みも求められるようになった。また、歴史的な景観に関して広範囲に取り組むためのものとして、2008年に歴史まちづくり法が施行されている。「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」の維持・向上を目指したものである。国が策定した基本方針に沿って各市町村が「歴史的風致維持向上計画」を作成・認定申請を行い、それを国が認定し「認定歴史的風致維持向上計画」となると、事業による支援や法律上の特例措置を受けることができる仕組みである。以上の法整備の変遷のもと、日本における住宅景観形成に関与する環境が整えられてきたといえる。

- 2) 住宅景観を含む景観研究の視点に関して、既往研究の動向より研究対象を捉える視点として、歴史的景観への適合（修景）、地域特性を取り入れた景観形成（創出）、景観構成要素からの現状把握（実態）、形成時期と建築様式等の分類と比較（変遷）、基準の設定と運用状況把握（規制効果）、景観に関係を持つ人の属性や行動（人的要素）、に大別できる。

また、住宅景観を対象とした研究の特徴としては、以下の通りである。①歴史的景観に根ざした文脈で行われる研究に関しては、景観の特徴が行政や市民などの間で共有されている状態である。伝統的町並みとの比較などを通して、修景等の道筋を示す視点で語られる。また、景観を形成するにあたって訪問者の存在が前提となっている。②まちづくりの文脈においては地域性とともに関景観計画等の策定の内容やプロセスが大きく取り上げられ、その有効性を検証する視点で捉えられている。③住宅地や住宅団地を主な対象とした研究においては、住宅における構造等の個別事象が抽出される。「住宅の外観」を分析する視点を持ち、景観形成の目的や求められる景観像について積極的に語られない傾向があることを示した。

第Ⅱ章 伝統的集落のみられる地域における住宅景観

第Ⅱ章では、景観規制がなく市街地化の進む都市における景観形成の事例として、広島県東広島市西条町を取り上げた。文化的景観と市街地の都市化された景観の境界上にある住宅を対象とし、その外観の調査および住民への聞き取り調査を行い、その結果を考察した。

- 1) 研究対象地域とした東広島市は、市域の大部分は山林に囲まれ多くの自然環境を残しており、市街地の周辺には農家集落が形成されている。しかしながら、交通の整備が進められていることによって、東広島市は広島市の通勤圏内に位置する衛星都市としての都市化が進み、市全体の人口が増加している状態にある。人口が最も集中している西条盆地をはじめこの地域は、冬に寒冷な気候となる地域であり、寒さの厳しい地方特有の「赤瓦」と呼ばれる赤茶色の瓦が使用されてきた。赤瓦を使用した民家は市民にも認知された特徴的な景観とされている一方で、近年その景観は市街化した地

域の拡大によって薄れつつある。これに対して市は、特に保全等の対応はしないという方針をとっている。

- 2) 調査対象地域として、文化的景観と市街地化された景観の境界を含んでいる東広島市西条町下見の一部地域を選定した。外観調査より、建築様式については和風住宅の軒数が多いものの、卓越している状態とはいえ、ミニ開発が行われている一角ではとりわけモダン住宅が立ち並ぶなど、文化的景観からはかけ離れた様子が見ええた。地区内には2カ所、ミニ開発が行われている箇所があったが、残る一つは様々な建築様式が混在している状態であった。建築様式はその形状以外においても、色彩や外構などにそれぞれ特徴を有しており、これは住宅景観に影響を与えるものとして考えることが可能である。
- 3) 46戸の住民への聞き取り調査より、東広島市の文化的景観に関しては、居住する建築様式や出身地に関わらずおおむね好意的に捉えられていることがわかった。しかし、好意的な回答も、多くの回答者が行っている「景観に対する行為」と突き合わせてみると矛盾点が見えてくる。例えば、自身の住宅外観に関する強いこだわりもしくは関心の薄さが、住宅景観に影響を与えていることへの自覚の欠如、改築や増築を行う際に外観よりも生活の利便性が優先される状況、また、建築様式の異なる住宅が並ぶことに対して違和感を持たないことなど、これらの積み重ねの上に景観の変化が起きていると考えられる。

第三章 住宅団地における住宅景観

第三章においては、景観規制のない都市として広島県東広島市を取り上げ、その中でも住宅団地に焦点を当て、住宅の外観調査と住民および建築業者への聞き取り調査を実施し、団地における住宅景観の形成に影響を与える諸要因について考察した。

- 1) 東広島市登録開発簿を用いて開発申請年などを考慮し、調査対象地区を、旧東広島市域でもある西条地区、八本松地区、高屋地区の3地区を対象とした、調査した結果は以下の通りである。東広島市の住宅景観としての団地景観は、開発時期や各団地において異なる形状の特徴をもった住宅が建築されるため、多様な建築様式が混在している。また、住宅に使用される色彩についても各建築様式で傾向があり、その色彩は団地の立地や住宅の立地にも影響されていると考えられる。建築様式の変化の一方で、「まちなみ」、「通り」としての景観を意識し、その創出を図ったり統一性をもたせたりする動きもみられた。
- 2) 団地の開発年代と居住者の年齢、そして建築様式の関係性を検討すると、世帯主の年齢と建築様式は関係性があることがわかった。県外からの移動は少数であり、過半数が東広島市内における転居であるということがわかる。転居理由としては「一戸建てが欲しかったから」という回答が47%と、最も多かった。景観意識を問うものとして、東広島市内でよくみられる赤瓦屋根と白壁の文化的景観について、どのような印象を持つかということを探った。全体の結果は「好ましい」41人(68%)、「どち

らでもない」14人(23%)、「好ましくない」3人(5%)、「わからない」2人(3%)となった。住宅取得の際は周囲の景観へ「考慮なし」が6割近くを占めた。住宅の外観に対して規制は必要かという問いに対して、全体の結果としては「必要」が45人(75%)、「不必要」が13人(22%)、不明が2人(3%)であった。県外からの転居者は景観に対する意識に関しては県内出身者との差はないものの、住宅の外観に対してはやや考慮をしない傾向がみられた。

- 3) 本調査では建築業者4社に対して聞き取り調査を行った。そのなかで景観の創出に関して明確な規定を設けているのは、団地8の開発業者のみであった。団地7, 8の比較の結果、同じ業者が建てる住宅団地であっても、顧客の好みが反映される注文住宅では多様な住宅が建てられているが、そこに建築協定の有無による強制力の有無、加えて業者がどのような開発指針を持っているかも、また深く関わっていることが明らかとなった。さらに、団地6, 8においては、両団地とも建築協定が設けられていたにもかかわらず、開発業者の姿勢や住民の認知の程度に違いが出ている。また、近隣の住宅への配慮は行われず、業者による「景観の創出」という考え方が住宅団地という空間の中のみで完結し、周囲の景観は考慮される対象となりにくいということを示している。また、外壁に目立つ色彩を用いている回答者からは「実際に建ててみるとイメージと違った」との声もあり、業者との連携が課題となる事例もあった。

第IV章 行政中心の景観規制のある都市における住宅景観

第IV章では、景観形成に対して地域指定などの行政による積極的な姿勢を示している沖縄県那覇市の「都市景観形成地域」を取り上げた。行政主導の景観規制によって景観形成を図っている事例として調査、分析、考察を行った。

- 1) 沖縄の景観としては亜熱帯性の植物に加え、赤瓦や石灰岩を利用した建築物、コンクリート造の建築物等が特徴的なものとして広く認識されている。現在、那覇市では行政を挙げて景観形成に取り組んでおり、赤瓦等の伝統的といわれる構成物の使用などを定めた都市景観形成地域を指定し、地域性豊かな景観づくりに励んでいる。
- 2) 「壺屋地区都市景観形成地域」、「龍潭通り沿線地区都市景観形成地域」、「首里金城地区都市景観形成地域」における調査より、都市景観形成地域に共通して以下のことが明らかとなった。まず、通りに面する住宅や店舗などの建築物の屋根の向きおよび屋根材が通りの景観に影響を与えている。さらに、多様な建築様式の混在は通り全体としてのまとまりを損なわせ、建築物の高低差は通り景観の連続性の喪失につながっている。目立つ色の使用に関しても各地区で確認されており、特に商業関連施設においては、差別化を図るために様々な色彩が使用されていた。現在は庇・軒の設置や琉球赤瓦の使用は比較的新しい建築物に偏っており、今後しばらくの間は都市景観の更新が進む傍らで、都市景観形成基準とは合致しない建築物が存在し続けると予測できる。各地区における特徴は次に挙げる通りである。壺屋地区は、通り沿いに焼物を中心とした商店が並び、観光地ともなっている。鎌塚(1996)が指摘するように、駐車場

や空き地が発生し、このような土地利用は高低差のある建築物とともに通り景観の連続性を阻害する要因ともなっている。龍潭地区では、道路の拡張工事をした際に、建て替えされた建築物も多いとみられ、基準に沿った比較的新しい建築物の並ぶところもあり、そのような箇所においては、淡い暖色系の外壁と琉球赤瓦の使用により色彩的なまとまりを感じる空間となっている。またこの場合、建築物の高さもほぼそろっており2階建て以上の建築物の底に琉球赤瓦が使用されている割合も高く、通りとしての連続性が顕著であった。首里金城地区においては住居の割合が高く、2階建ての建築物が多い状態であった。また、都市景観形成基準で石垣の設置と緑化が図られており、伝統的な空間を形成している。3つの都市景観形成地区のなかでは、伝統的とされる建築物のある景観に、最も近い景観を形成しようとしているといえる。

- 3) 平屋琉球赤瓦葺きの伝統的家屋の景観に関しては、回答者の8割以上が「好ましい」と回答しているように、大多数の回答者は伝統的家屋に対する自らの好みを認識している。助成制度の利用経験者は龍潭地区と首里金城地区に多く、助成金を受けた回答者と受けていない回答者の双方に、1～2割程「どちらかといえば不十分」、「不十分」とマイナス評価をした回答者が存在し、彼らからは「昔の魅力はなくなった」、「継続性がない」等の意見が挙げられた。また、まち並みを守る工夫や努力の内容に関しては、「自宅の周辺をきれいに整える」、「車が外から見えないようにする」、「沖縄本来の植物の植栽」など外構に気を遣っている様子がわかる。各地区に「通り会」などの名称で景観への取り組みを行う自治会が存在するが、「若者が参加していないために若者の感覚が取り入れられていない」、「自治会の回数が少なく若者が非協力的であるために保全が進まない」等、その活動の仕組みや内容、世代間の意識の違いを問題として挙げる回答者もあり、改善が求められている。

終章

終章では、第Ⅱ章～第Ⅳ章における2都市の事例より、行政と人々の景観形成への作用に関して考察し、そのメカニズムについて述べた。

- 1) 東広島市においては、価値観、安全性、技術の変化、維持費の点から和風住宅が敬遠されており、赤瓦住宅の住民の生活スタイルの変化と、さらには人々の景観意識の低さが文化的景観の変容を引き起こすという、景観変化のメカニズムを指摘できる。住宅団地においては、さらに建築業者による景観コントロールが加わり住宅景観を形成している。那覇市では、行政主導の下、景観形成の具体的な方向性や取り組み方法が明示されている。外部からの評価や観光産業への貢献などの側面からも景観形成が進められていることより、景観形成の取り組みを行う際に、景観の方向性と具体的な手段の提示、他者からの評価などが要因となって景観が形成されているといえる。
- 2) 今後の景観形成での課題点として、東広島市においては、市の景観に対する姿勢や取り組みが明確化されず、住民や建築業者においても景観形成に関しての認識が希薄であり、文化的景観を含め今後の景観形成に関して話題として共有するまでの意識の

醸成が進んでいないことが指摘できる。各々が景観形成の主体であるという認識をもち、景観の公共性を認める段階までの意識の引き上げが課題となる。

一方、那覇市では積極的な景観への取り組みが展開されているが、行政と住民が景観形成に関して「誰のために、どのような理念をもって」取り組むか将来的なものも含めてビジョンを共有しているとはいえ、また立場の異なる住民同士のコミュニケーション不足も感じられる。また、規制を行うにあたって、経済的な負担や商売をするうえでの不便さなど、住民自身が解決を図るしかない状況を発生させている。また、森田ほか(1993b)のいう「都市型赤瓦住宅」である「モダンな琉球風建築」が目立つが、回答者のなかにはこのような建築物が並ぶ景観を伝統的景観とはよべないと感じる人々も存在し、都市という空間で「伝統的なもの」と「近代化されたもの」の折り合いをどのようにつけるかという問いが見出される。

- 3) 本研究においては、景観のもつ意味に関しては十分に検討することができず、また研究の方針としてダンカン(2006)が挙げる「非地元民」の視点を取り入れ、外部者による景観の解釈を並置し比較することはかなわなかった。景観形成に影響を及ぼす要因について、費用および建築材料の生産・流通等の経済面との関連についても検討の余地が残っており、今後の課題とする。

IV. 参考文献

【序章】

エドワード・レルフ著、高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳(1999):『場所の現象学』筑摩書房。E. C. Relph(1976): Place and Placelessness. London: Pion.

岡田俊裕(1987): 敗戦前の日本における「景観」概念と「景観」学論。

人文地理, 39, 55-70.

金田章裕(2012):『文化的景観 生活となりわいの物語』日本経済新聞出版社。

渡部章郎(2009): 専門分野別による景観概念の変遷に関する研究—特に植物学系分野、文学系分野について—。四天王寺大学紀要, 47, 1-15.

渡部章郎・進士五十八・山部能宜(2009): 地理学系分野における景観概念の変遷。東京農業大学農学集報, 54, 20-27.

渡部章郎・進士五十八・山部能宜(2010): 造園学分野および工学分野の景観概念の変遷。東京農業大学農学集報, 54, 299-306.

John Wylie(2009): landscape. Derek Gregory, Ron Johnston, Geraldine Pratt, Michael J. Watts, Sarah Whatmore (ed.): THE DICTIONARY OF HUMAN GEOGRAPHY. Wiley-Blackwell, 409-411.

【第I章】

有馬健一郎・中野茂夫・井上 亮(2012): 出雲市における伝統的町並みの特徴と行政支援

- による町並み形成に関する取り組み—大社町と平田町を事例に一。都市計画論文集, 47, 730-708.
- 伊藤徹哉 (1999) : 仙台市における住宅地景観の地域的特徴 およびその形成過程。地理学評論, 72A, 357-380.
- 乾 康代・寺内美紀子・伊藤勝紀 (2008) : 都市近郊農村における世帯類型別にみた住宅建設動向と住宅外観の特質。日本建築学会計画系論文集, 73, 2117-2124.
- 加我宏之・田川圭佑・武田重昭・増田 昇 (2013) : 堺市大美野住宅地において継承されてきた景観資源の風景的価値に関する研究。都市計画論文集, 48, 375-380.
- 亀井靖子・曾根陽子・石井智子・横山理穂 (2005) : 郊外大規模戸建て住宅団地の住戸植栽と街路景観に関する研究-建売住宅・団地の変容過程に関する研究 その 2。日本建築学会計画系論文集, 590, 9-15.
- 権 孝姫・松尾英輔・高藤博之 (2001) : 専用住宅の門外または玄関前の植物の配置状況について。ランドスケープ研究, 64, 375-378.
- 小浦久子 (2012) : 京都市旧市街地型美観地区における基準の運用と景観形成課題—新築戸建て住宅の通り外観構成の実態調査より—。都市計画論文集, 47, 217-222.
- 小島拓朗・池田孝之・小野尋子 (2009) : 石垣市風景づくり条例・風景計画の効果と運用課題について。日本建築学会計画系論文集, 74, 1587-1592.
- 鄭 秀卿・根上彰生 (2014) : 歴史的町並み保全地区に対する市民の「認識・反応」過程に関する研究。日本建築学会計画系論文集, 79, 1355-1361.
- 鈴木佐代・石渡瑞枝・沖田富美子 (2011) : 世代交代期の郊外戸建住宅地における敷地の変容と居住者移動—横浜市 H 住宅地内の建築協定区域と非協定区域の事例から—。日本建築学会計画系論文集, 76, 431-437.
- 宋 暁晶・池田孝之 (2010) : 「琉球遺産群」のバッファゾーン及びその周辺地域における景観形成と保全について—首里城跡、中城城跡、斎場御嶽を事例として—。日本建築学会計画系論文集, 75, 1463-1470.
- 高橋 梢・内村雄二 (2012) : 一般的市街地の個性ある街並みづくりの創出に向けた景観形成基準のあり方とその運用に関する一考察。都市計画論文集, 47, 75-83.
- 田所 篤・加藤仁美 (2011) : 条例による地域特性に即した開発事業の計画誘導と審査基準をめぐる課題-鎌倉市及び大磯町まちづくり条例の場合。都市計画論文集, 46, 553-558.
- 永富 賢・高田光雄・ヨム Cholho (2001) : まちづくりと連携した建売住宅団地開発の可能性—京都・太秦における「まちなみ住宅」設計コンペを通じて—。都市住宅学, 35, 166-171.
- 檜木克哉 (2001) : 地方中小都市における景観まちづくり施策の変遷—福岡県太宰府市における景観形成条例策定に至る動向—。都市住宅学, 35, 138-142.
- 福田珠己 (1996) : 赤瓦は何を語るか—沖縄県八重山諸島竹富島における町並み保存運動—。地理学評論, 69, 727-743.
- 藤岡和佳 (2001) : 村落の歴史的環境保全施策—沖縄県竹富島の町並み保存の事例から—。

村落社会研究, 7, 25-36.

古市 修・小林正美・泉山墨威・野口弘行・内山善明 (2012): 街並み景観データベースを活用した歴史的街並み再生の方法論に関する研究—岡山県高梁市における景観構造の視覚化と町並み助成制度による修景効果の検証—. 日本建築学会計画系論文集, 77, 619-628.

宮本雅子 (2006): 戸建住宅の玄関アプローチの実態と居住者の意識. 日本家政学会誌, 57, 323-331.

村松保枝・赤坂 信 (2009): 全国町並み保存連盟加盟団体の活動にみる保存の動機の変遷. ランドスケープ研究, 72, 459-464.

劉 一辰・小場瀬令二 (2014): 戸建て住宅地におけるしゃれ街条例による住環境・景観保全への効果. 日本建築学会計画系論文集, 79, 147-154.

吉野裕太・川島和彦 (2011): 長野県小布施町における拠点景観整備事業を契機とした景観形成の変遷に関する研究. 日本建築学会計画系論文集, 76, 2353-2359.

【第二章】

経済産業省 (2008): 近代化産業遺産群 続 33.

http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/nipponsaikoh/pdf/isangun_zoku.pdf (2016年11月11日閲覧).

竹山清明 (2004): 街並み景観の改善を目的とした関西における戸建て住宅の建築様式についての人々の好みに関する研究. 日本建築学会大会学術講演梗概集.E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育 2004, 491-492.

東広島市企画振興部市政情報課編 (2015): 『統計でみる東広島市 2015』. 東広島市

東広島市都市部都市計画課 (2011): 『第2次東広島市都市計画マスタープラン』. 東広島市都市部都市計画課

松岡英俊・市川尚紀 (2011): 広島県賀茂地方の居蔵造り集落における気候特性に対する空間構成手法に関する研究. 日本建築学会技術報告集, 17, 997-1002.

伊東茂夫 (2001): 赤瓦と居蔵造り 賀茂台地を代表する景観. 土井作治監修: 『図説 東広島・竹原・呉の歴史』 郷土出版社, 198-199.

森 郁夫 (2001): 『ものと人間の文化史 100・瓦』. 法政大学出版局

由井義通 (2007): 17章 郊外ニュータウンの景観. 阿部和俊編: 『都市の景観地理 日本編 2』 古今書院, 142-151.

宮川忠孝 (2001): 学園都市をめざして 地域に開かれた大学. 土井作治監修: 『図説 東広島・竹原・呉の歴史』 郷土出版社, 244-245.

【第三章】

東広島市都市部都市計画課 (2011): 『第2次 東広島市都市計画マスタープラン』. 東広島市都市部都市計画課

【第IV章】

- 沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課（2013）：『沖縄らしい風景づくりに係るポータルサイト構築事業 風景結々 平成 24 年度活動報告書』。沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課
- 木崎甲子郎・目崎茂和（1985）：琉球石灰岩と沖縄社会。石膏と石灰，1985，34-40.
- 鍬塚賢太郎（1996）：那覇都心部における市街地形成と土地利用変化。地理科学，51，67-80.
- 杉谷真理子（2013）：東広島市の住宅団地における住宅景観の変化と住民意識。日本都市学会年報，47，201-210.
- 堂前亮平（1997）：『沖縄の都市空間』。古今書院
- 渡久山章（1986）：沖縄におけるサンゴ礁と石灰岩—それらの暮しとのかかわりと化学的生いたち—。石膏と石灰，1986，40-44.
- 中山 満（1971）：那覇市の商業地域の性格と課題。地理，16，117-122.
- 那覇市都市計画部（1996）：『首里シンボルロード沿線地区の都市景観形成調査』。那覇市都市計画部
- 那覇市都市計画課（1998）：『那覇市都市計画マスタープラン特集号』。那覇市都市計画課
- 那覇市都市計画部都市計画課（1999）：『那覇市都市計画マスタープラン—住みよいまちのみちしるべ—』。那覇市都市計画部都市計画課
- 那覇市都市計画部都市計画課（2000）：『那覇市の都市計画』。那覇市都市計画部都市計画課
- 森田 大・渡嘉敷健・真栄城尚子（1993b）：沖縄の都市型赤瓦住宅の普及要因に関する考察。都市住宅学，33-36.
- 森田 大・渡嘉敷健・真栄城尚子（1993a）：ドル経済体制下の沖縄の住宅形成に関する研究。都市住宅学，13-16.

【終章】

- ジェームス，S. ダンカン著，西部 均訳（2006）：意味付与の体系としての景観。空間・社会・地理思想，10，84-95. Duncan, James S. (1990) :Landscape as a signifying system. In The city as text: the politics of landscape interpretation in the Kandyan Kingdom, pp. 11-24 (Chap.2). Cambridge University Press.
- 太田裕彦（2008）：環境心理学の視点から捉えた景観の役割・意義。日本不動産学会誌，22，50-54.